

表 4099 2014年中の出口部感染発症率(回/1患者・年) 治療方法(新分類)別 (PD・HD(F)等併用患者)

治療方法 (新分類)	0	1.0～	2.0～	3.0～	4.0～	5.0～	合計	不明 記載なし	総計	平均	標準偏差
腹膜透析 (CAPD) (%)	409 (81.3)	64 (12.7)	11 (2.2)	5 (1.0)	3 (0.6)	11 (2.2)	503 (100.0)	386	889	0.35	1.04
腹膜透析 (APD) (%)	209 (78.3)	35 (13.1)	10 (3.7)	7 (2.6)	4 (1.5)	2 (0.7)	267 (100.0)	234	501	0.40	0.98
腹膜透析 (CCPD) (%)	175 (79.9)	26 (11.9)	12 (5.5)	2 (0.9)	1 (0.5)	3 (1.4)	219 (100.0)	139	358	0.37	1.01
合計 (%)	793 (80.2)	125 (12.6)	33 (3.3)	14 (1.4)	8 (0.8)	16 (1.6)	989 (100.0)	759	1,748	0.37	1.02
記載なし (%)											
総計 (%)	793 (80.2)	125 (12.6)	33 (3.3)	14 (1.4)	8 (0.8)	16 (1.6)	989 (100.0)	759	1,748	0.37	1.02

数値下の括弧内は行方向の合計に対する%です。

個々の患者の出口部感染発症率(回/1患者・年)は、1.0未満の数値が0となるため、「0」と表示しています。

\*腹膜透析(CCPD)は、APDと手動のバック交換の両方を行うもの

(C)Japanese Society for Dialysis Therapy